

女房はたらけ

真繼 雲山

大乘佛教では六波羅密を修したものが菩薩に成れると教へる。六度の根本は智慧であつて、智慧なき布施は乞食の製造となり、智慧なき持戒は固陋となり、智慧なき忍辱は屈從となり、智慧なき精進は無駄骨となり、智慧なき禪定は無用の長物となる。

六度のうち精進とは、魚類を食ふなどの教へではなく、懈怠の反對を意味し純一にして進むことである。出家にあつては道を行ひ、在家にあつては家業に勉勵することである。

精進とは精神生活、経済生活の基礎であり、生きてゆく人間の務めである。國民、精進せずんば國亡び、一家、精進せずんば家亡ぶ、働くことの嫌ひなものは、神の樂園、佛の淨土を追はれたものであつて、仕事を怠るはイヤな顔をする女房は五十年の不作であり、仕事を言ひつけられて喜色を消す子供の將來に見込みはない。私は働かぬ絶世の美人よりも、働くことの好きな女房を歓迎する。仕事を樂しむ少年ならば千金を投じて教養したい。しかし或る一つの仕事を

見て、どうにもイヤ氣がさして働けないといふのは『好きこそ物の上手なれ』の正反對の歩道を進んでゐるからであつて、罪はスタートに在り、出發点を誤つたことは智慧なかりしに由る。修養として努力は高調すべきであるも、それは道徳の畑であつて、宗教とは努力でなく、宗教とは自然の道である。終日戒に於て戒を知らざるが戒の眞諦であり、戒が苦しいやうならば、それは未だ戒といふ三味線の糸に乗つてゐないの

【朝】焼き豆腐、みそ汁
【書】さば、わかめ、かんぴょう、酢みそ
【晩】はらこ、たまご、青菜、吸ひ物

ノート

ガニーシ
家具は昨
か冷めたい紅茶で洗ひ、拭きすると綺麗になります。

である。その天分を職業とがピタリと一致して、その仕事に従事することが樂しくてたまらぬ。否なその樂しい杯といふ愉快さをも忘れて果てた三昧境が、宗教としての精進の姿である。雲慶も左甚五郎も彫刻が至樂の道であつたに相違ない。否なその至樂などといふ世界さへも越えた無心の境であつたに相違ない。彫刻がイヤでは名人になれず、イヤする仕事にロクなことの出来る筈はない。

豊臣秀吉が天下を取つたのは、草履取りにも普請奉行にも打算を越えた歡喜と精進が伴つたに相違ない。彼れの傳記を讀みゆくと朝の子雀のやうに踊躍しては仕事に精進してゐる有様が繪のやうに見える。さう

二明日の献立
【朝】焼き豆腐、みそ汁
【書】さば、わかめ、かんぴょう、酢みそ
【晩】はらこ、たまご、青菜、吸ひ物

して彼れは戦争が飯より好きであつたに相違ない。欣々然として馬に跨り槍を引いて突進したればこそ面白いほどに相手の首がチョン切れたのである。チョン切られた不運な相手は、戦争に不向でイヤ出て来たからである。

ナポレオンが全歐を席捲したといふのは、戦争が彼れに取つ至樂の道、否な無心の境でありし故に、彼れの行く手は無人の曠野であつたのである。至樂と精進の統一境は、その威力、斯くの如し。左れど嗜好的な娛樂を職業と穿き違えられては困る。何人も藝者遊びは面白いに相違なきも、それは職業ではなくして懈怠のドソ底であ

定価 一月五拾五圓 郵費五圓
廣告料 五圓 十二字 一行 金五拾圓
日曜祭日の翌日休刊
發行所 東京市神田區本町三丁目五番地
電話 六三〇〇
印刷所 東京市神田區本町三丁目五番地
電話 六三〇〇

尺八が好き、碁が好きだから、尺八教授、圍碁俱樂部の親爺になるといふ嗜好即職業の道もあるが、それが果たして幸福か悲惨かを再吟味する要がある。斯く申せばとて夜番や車夫の好きな男のある筈はなく、何人も役人でフンゾリ返りたい話になるが、凡そこのころで宿因の道に安住するに如かず。なかうど口一つ、好とは思はねど見合で知つた女房も、添ふてみれば一世では足りぬ事となり、住めば都、その境地に入つて見れば又おのづから職業即至樂の道があるものだ。さうして己れの宿因を諦観し、與へられた天地に至樂の道を探るといふが精進である。

斯くて精進即至樂の境を見つけるといふことが世間にあつては成功の要訣であり、出世間にあつては宗教の要道でもある。【終】

【終】

黎明の蟲の音踏み出でにけり
左右より蟲時雨降る峽路かな
渡邊 何鳴
草の雨ぼそぼそ蟲の鳴きす
一つ灯に皆集まりて栗の飯
ちゝろ鳴く大地のはてのなかりけり



物質 一般

各種債券類

三井物産店

平町四丁目 電話 六〇六番
岸川目六番

耳鼻咽喉科専門

大和田醫院

平町南町 電話 一七〇番

CAFE SEKAI

カネ子音界

紅、そして青の灯の下に
美女のくむ緑酒を知らぬ御身よ
さらば来り召せ
吾が世界のハレムへ。

美しいオアシス世界の麗女は
いと久しく御身の來るを
心して待てり……。

六四

新製 品

コヒー通の待望せる
挽立コヒーの快味

四半卦罐入 〇、三五
半卦 〇、六五

大勝園コヒー部

電話 三九六番

看護婦急派

の求めに應じます

平町南町
平看護婦會
電話 三〇七番

伏見町長の辭意かたかく

當局辭表を受理

町會各派代表の要請にも辭意せず

本日協議會で決定

平町長伏見彦衛氏は突如昨十二日病氣其の職に不堪との理由を以つて酒井助役の手元まで辭表を提出するに至つたが、酒井氏の辭表提出に酒井助役以下役場首脳部は

極度に狼狽し酒井助

役は私邸に伏見町長を訪ひ留任を懇請すると共に町會各派代表者に此の旨を通じ善處策を講ずる爲め今十三日午前十時町會秘密協議會を召集したが此れより先き酒井助役より町長辭表提出の飛報を受けた町會各派は寄々集合協議の結果上水道擴張工事既に竣成の今日と雖も町の

前途は頗る多難であ

り伏見町長の手腕に俟つ處ろ多い、殊に病氣任に不堪との理由なれば來春四月の改選期まで自重精養して圓滿退職すべきであるとの建前から町會各派代表の青沼井上、野崎、萩原、吉田(寅)の五氏は今十三日午前九時伏見町長を私邸に訪ひ慰撫留任を懇請したが伏見町長の

決意は牢固たる

あり町會各派の一致したる辭意撤回懇請も伏見町長の辭意を得たるに至らなかつた斯くて不本意ながら伏見町長との會見を終つた各派代表議員は直ちに町會秘密

早くも下馬評

青沼、水野、佐瀬氏等々

後任町長の顔觸れ

伏見町長の投じた巨石……辭表提出で沸くが如き混亂に陥つた平町當局も遂に本日の町會協議會に於いて町長の辭表を受理と決定するに至つたが伏見町長の辭表實現に速くも後任町長の下馬評が巷間を賑はして居り

救濟事業着手で

喜色漂ふ山間方部

幾年振りかで見られる

秋祭りの賑ひ

石城郡上遠野、田人、澤渡等の山間方部では既に着手した縣匠救濟事業の道路改修工事でかく村共一日平均百名乃至二百名の農民が人夫として採用され勞働五日

る等村民を喜ばして居る

赤井嶽登山

石城郡

豊間村青年訓練所生二十餘名は來る十六日午前八時より秋期遠足として赤井嶽登山をなす事になつた

玉川信用總會

石城郡

郡玉川村信用購買組合の臨時總會は來る十八日午前九時より村役場に於て開會昭和五十六年度決算其他を附議

大々的防火宣傳

本日組頭會議で

宣傳方法を決定

昨報平署管内各消防組の組頭會議は本日午前十時より平署會議室で開催既記の如く十一月五日の第三回防火運動當日の實施に就いては左記の如き大々的計劃を實施される

(講演會) 當日管内四十一小學校兒童に防火上の訓話をなし外平、湯本、小名濱、江名、内郷等では一般聴衆の爲講演會を催す事

(消防訓練) 當日午前十時に平町に模擬火災を實施し管内各消防組は機具類の演習点検を行ひ午前六時正午後六時の三回警鐘打つ事

(火災警防) 各消防組員警官吏員等が各戸毎に注意警告をする(避難演習) 當日は震火災に際しての避難演習の爲め平町かく中等學校管

東北六縣

雄辯大會

平商校から

平商業學校辯論部では來る十七日東北學院高等學部主催の下に同校講堂に於て開かれる第五回東北六縣下中等學校雄辯大會に四年山家君を出場せしむるが同君の演題は狂亂に抗してである

第一校の

競技役員

本日は決定さる

なし尙展覽會をも開催する以上等の大規模な運動を實施するので當日は是が趣意宣傳の爲めかく官衛工場管内全乗合自動車後部及びかく映畫館に至る迄ポスター其他を以つて防火思想の徹底を計る事となつた

本校決定さる

既報平第一小學校秋季運動會は來る二十一日午前八時より開催されるが各係員は左の如くである

農作物の加工と

販賣組合設立

玉川村部落民の熱心な

自力更正運動

石城郡玉川村字林城の部落民は目下農村の自力更生策として農作物加工販賣組合を設立すべく運動中であるが是は農産物を加工して一般需要家に直接安價に供給するもので部落民は非常な力奮を入れて居り實現を有望視されてゐる

教員野球

大會決定

來る三十日 既報過般雨天の爲め延期された濱三郡各小學校教員野

抗野球試合は來る三十日午前八時より平第一小學校グラウンドに於て行ふ事に決定

視察員を

派遣

教育部會で

石城教育部會では來る二十八日より五日間新潟長野群馬方面に教育視察員を派遣すべく目下薦衛中であるが人員は役員一名、會員二名計三名である

自治會の

美 學

神社公園等

平第二小學校自治會では今十三日午後二時から役員會を開き社會奉仕作業として毎週一回神社公園戦死者の墓地を清掃奉仕すると

學校衛生研究會

日取變更す

既報縣主催に依る學校衛生研究會の日取は今回左の如く變更された

忠魂祭參拜

平町官

私立中等學校各小學校では來る十五日松ヶ岡公園に於て舉行される臨時忠魂祭には一時間授業後全校生徒を引率參拜する事と決定した

小學校記念講演

平町各小學校では今十三日は戊申詔書御下賜記念日に當るので國旗を掲揚し戊申詔書に關する講演をなした

毆打された児童の父 傷害罪で教師を告訴

平署で早速真相の取調開始 未曾有の不祥事

今十三日午前十時頃平警察署司法主任菊地警部補は平第二小學校に突如私服で現はれ金澤首席立會の下に一年二組長野川ミイ、菅澤榮子(何れも假名)の兩名を極秘裡に何事かを

取調へて引上げたが

事件の内容を仄聞するに去る五月二十三日同校女訓導○○○(ニ)が教へ子である同町字菅ノ澤三三師福太郎二女中西チヨ(ハ)を綴方授業中に禮儀の仕方が悪いとて毆打した結果チヨは

教育界浄化の爲と

被害者の母親談

一方○○訓導を傷害罪で平署に告訴した被害者チヨの實父中西福太郎氏を訪へば福太郎氏は不在で母親が代つて

チヨの受けた負傷は先生から毆られた爲めである事は醫者も證明して居りますし此んな事では子供達を學校にお願する事はとても不安だから一般父兄の爲めだと言ふので夫福太郎が遂に告訴をしたのです

負傷は依然快癒せず

○○○女訓導の冷たんな態度に激昂した實父福太郎は遂に昨十二日○○訓導を傷害罪として平署に告訴前記児童等を當時の目撃者として取調たもので教育會未會有の大不祥事として成行を注目されてゐる

困惑の 第二當局

金澤首席談

大不祥事の突破に驚愕してゐる平第二校當局では折柄津田校長不在で首席金澤訓導が

中西は未だ登校はしませんが本年五月下旬木村病院に入院した事は事實で

浮氣な亭主を 妻から説諭願ひ

出稼中に情婦が出来 古巢を忘れた二十男

石城郡内郷村字平太郎居住日雇古川政太郎(三)は去月二日妻ハル(三)と二兒を残して茨城縣多賀郡關南村字倉織田某方へ手傳ひとして出稼に行つたが其後同村の木村キン(三)と情を通じ

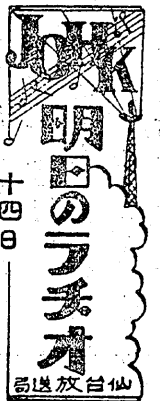
留守宅に送金もせず妻ハルから再三歸宅を通知したが音沙汰もないので妻は本日平署に夫が歸宅するやう説諭して下さうと願出た

偽大學生

求刑通り

本日本支部で判決言渡さる

既報伊達郡長岡村字新町五



明日のラジオ
今晩も明日も北西の風晴れ

今晩の部

後六、〇〇 子供の時間
漫畫劇 第三「からす劫吉」漫畫劇場
後七、三〇 講演「時代要」と「國字問題」星野行徳
後八、〇〇 放送舞臺劇

「阿閉掃部と青木新兵衛」前進座河原崎長十郎一座
後八、三五 哥澤 口舌して外 哥澤芝田外
後八、五〇 連続講談「關根彌次郎」第二席 田邊南龍
後九、三一 (満洲より) 講

演 執政府諮議 中
吉 全國ニュース 氣象通報
番組豫告
明日の部
前九、一五 全國英語教員大會狀況 日比谷公會堂より中継
前二、〇〇 家庭講座
後二、〇〇 吹奏樂 大阪市音楽隊指揮林互
後二、〇〇 婦人講座「洋畫の観方」吉田博

四合齋市況

閉場間際で氣乗薄
遂に四十圓を割る

金成校長の 當選祝賀

十五日に舉行

十六日の閉場を控へた四合齋市場の十二日に於ける取引は總數百四十三貫、最高五十一圓五十錢、最低四十二圓、馴四十九圓二十錢と遂に四十圓臺に至つたが現在では一般農家には藪が全然なく掃立を追加せる養蠶業者が僅かに出荷して居る有様である

泥的

カラツポの 金庫を窃取

石城郡湯本町字三國飲食店山崎留吉方で去る十一日正午衛生掃除の爲め家財道具全部を裏庭に重ね家人は二階で晝食中何者かが現金在中と間違へてか書類入り手提金庫を窃取逃走したので其筋へ届出た

割腹自殺

精神病者が

江名町字永崎河野松吉弟亥之松(三)は今十三日午後二時頃自宅座敷内で家人の不在中双渡一尺八寸の日本刀で見事に割腹自殺を遂げたが亥之松は精神病者である



【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第十七十四席 平手造酒

鹿島神社の祭禮

下總香取郡笹川河岸の繁藏の許へ尋ねて来た平手造酒その案内は夏目の新助、此家は旅宿を營んで居り屋敷を十一屋と云ふ、新助から繁藏に造酒を伴れて来た事を申すと大いに喜び先生々々と大切に、この繁藏も以前は武家の人となつた者として行儀作法も正しく又きつぱりした氣性、それに惚込んだ造酒、先づ此處に足を止めて若い者に劍術を教へる、千葉の門弟にて出藍の奉才子、それは劍術にかけては吃驚するやうな腕がある然しこの造酒は前にも申した如く酒癖が宜しくない、酔ふて荒い事をす

であるが、腹へ酒が亂入すると刀を抜いて暴れる、これがこの人の確です、と翌年の五月常陸鹿島神社の祭禮、此日には諸方の顔役が出張して賭場を開く二三日の間この鹿島の町へ小判小粒の雨が降ると云はれた



る、尤も酒を飲むと十人の内九人までは精神に異常を來す、中には他人の氣の障る事を云つて喜ぶ者もある、また無闇に女を追駈ける、今の紳士は大分悠長云ふ酒狂人がある、又面白くない事にグラ／＼笑ひ或は泣く、或は又それに居合せた者の品物を持つて歸る危険性を帯びた泥酔者もある、これ等は最も宜しくない、平手に酒を飲まぬと冗談を云つて洵に無邪氣で面白

程、本社修繕に就て十一年間大祭も絶えて居た、これは祭りの費用を修繕に用ひる爲、これが今度久し振で大祭を執行する、俗に鹿島の祭りを棒祭りとか云ふ、なんでこんな事を申すかと云ふに、民子の者は御輿渡

御の節六尺棒を持ち數百人にて警固する、他國にない祭禮、それを十四、十五、十六の三日間執行する、所で繁藏は折悪く病氣で出張する事が出来ない
繁「オイ富や」
と叫ばれたから一子分の勢力富五郎が
富「何ぞ御用でござんすかえ」
繁「鹿島様の祭禮に就て俺は行きたいと思ふがまだ身體が快くねえ、こいつを押して出かけて重くなつてはお前達も迷惑する、そこで俺は行かねえから汝は代理として若い者を例れて出

富「左様でございますな、それでは私が代理として出張する事にします」
と云ふと傍に是を聞いてゐた平手が
造「勢力、貴様が出張するら俺も一緒に参る」
と云ふと繁藏が
繁「まあ先生、鹿島へ行くはお廢しなさい、私の身體が癒れば、参詣かた／＼遊びに参ります」
造「イヤ本年は大祭を執行いたす由、それゆゑ見物に参る、また鹿島には我國劍法の祖たる飯篠長威齊の道場も保存いたしあるとの事、それを一見いたしたい

張つて呉れ」
富「承知しました、然し親分行けるものならば船で出かけたが宜うございませう」
繁「イヤ便所へ行くも大儀だ、まあ／＼無理はしねえ方が宜からう」

繁「さうでも御座いませうがまあ今度はお廢しなさい」
造「俺が行つては悪いが」
繁「悪いといふ譯ではありませんが、あなたは酒の上がよくない、鹿島へ行きなすつて間違ひでも出来ますと勢力が迷惑をします」
造「イヤ三日の間は禁酒致す、酒を飲まざるは酔ふ事もない又亂暴致す事もあるまい」
繁「イヤ先生はさう云ひなさるがあなた程の酒好きが何うして飲まざるに居られませう、まあ／＼お廢しなさい」
云ふと造酒が
造「イヤ飲まぬと云つた上は如何な事があればとて飲まぬ、俺も武士だ必ず飲まぬ、武士が誓うたことは鐵の如く決して破らぬ」
繁「さうですかそれならば

一緒にお出でをさるがよいがくれ／＼も云つて置きますが、勢力の困る様なことをなさらぬやうに」
造「そのことは心配するな」と云ふと繁藏が
と云ふと繁藏が
と云ふと繁藏が
と云ふと繁藏が

木村外科科門院

平町五丁目目橋
電話三〇九番

一冊の代金で
御希望通りな
五冊の雑誌が
自由に讀める
川崎巡回文庫
電話三〇〇番
(申込次第規則書進呈)

市原醫院
平町田町
電話一四四番

近日賣出す發賣品は
満腹………？
一人前十五錢で満腹
平町三丁目
せせせ食堂
電話六三三番

玉屋洋品店
平町田町通電話六五六番

セメント
壁用材料
コールタール
ペンキ塗料
板ガラス
磐城セメント株式會社
代理店 西村屋藥舖
平町二丁目電話三

毎度御ひいき
有難ふ御座ります
うなぎの御用命は
うなぎの奴
平町田町(電話二二番)
ホール御座敷の……ありませう。皆様の御立寄を!!